

学生支援の現場から

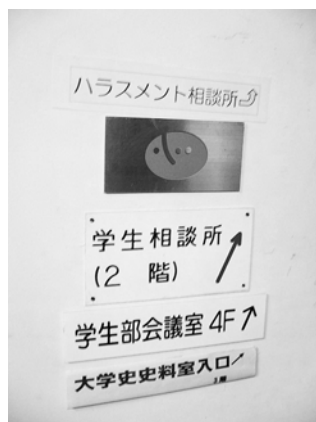
◆ 東京大学  
新構想に基づく学生支援システムの構築

亀口 憲治  
(東京大学学生相談所長・教育学研究科教授)

最近の東京大学学生相談所において特筆すべきは、長年の悲願であった専任教授が配置されたことである。本郷キャンパスに教授、および駒場キャンパスに准教授があいついで採用された。これらの専任教員の配置は、総長を始めとする大学執行部の決断の賜物である。また、本郷の相談所では五〇年前の設置以来、初めてとも言える相談室の全面的な改修工事が行われ、居心地の良い明るい雰囲気の間接室に改装された。

これらのインフラ整備に加えて、二〇〇五年度は副学長を委員長とするアカデミック・ハラスメント防止のワーキンググループの活動が本格化した。その成果は、「東京大学アカデミック・ハラスメント防止宣言」として実を結び、全学アカデミック・ハラスメント防止委員会が設置された。

東京大学では、昨年度末に全学の学生相談に関連する相談機関の連携を見直すためのワーキンググループが設置された。この場合には、学生担当の副学長をはじめ、全学の各部署を代表する委員の方々が参加している。問題の根本的な解決をめざす防止策を練り上げる作業を通じて、数年内に新構想に基づく学生支援システムが整備されることが期待される。これまで「待ち」の姿勢が強かった学生相談関連諸機関が、相互のネットワークを強化することによって、積極的に解決策を提示する「学生支援センター」(仮称)の役割を果たすようになることが目標とされている。東京大学に新センターが設置されることによって、心理的にも安全な学内環境の整備が進むことを切望している。



学生相談所案内



学生相談所入口



安田講堂



面接室

学生相談所に持ち込まれるさまざまな相談内容の中で、アカデミック・ハラスメントはその一部をなすにすぎない。しかし、アカデミック・ハラスメントの問題は、院生や学生がキャンパス内で安心して勉学や研究に邁進できる環境を著しくそごう阻害要因であることは論を待たない。この他にも、教職員が自殺防止やメンタルヘルスに関わる問題への適切な理解を欠くことによって、重大な事態を招くことがないように心がけるべきことが緊急の課題となっている。